資料９－３

航空機モニタリングの運用技術の確立等事業に係る経費　ロジックモデル

（インプット）

2019年度予算

277百万円

(執行額245百万円)
執行率88%

予算
1．航空機モニタリングの運用技術の確立等事業
277百万円

（アクティビティ）

活動
1．航空機モニタリングの運用
①地域毎の原子力施設周辺領域における空間放射線量率のバックグラウンドレベルの状況把握。
②地域毎の緊急時における航空機の運航に支障となる箇所の把握及び最適な飛行ルートの検討。
③緊急時に備え防衛省と連携した訓練の実施。
④緊急時に備えた航空機モニタリング資機材及び技術の維持。

（アウトプット）

活動指標
1．バックグラウンド調査の実施
　バックグラウンドレベルを把握するために地方空港と連携してフライトを実施した地区数

活動実績
令和元年度：2件

2．データの妥当性確認
　1．の地区に対して測定したデータと比較し妥当性を確認した件数

活動実績
令和元年度：80件

3．防衛省（自衛隊）との連携訓練
　三者（防衛省、JAEA、規制庁）による連携した訓練の実施

活動実績
令和元年度：1件

（アウトカム）

成果指標

本事業で得られたデータや知見等を基に各地区における緊急時における航空機モニタリングの運用方法を整理すること
・全国16地域中、緊急時における航空機モニタリングの基礎的な運用方法の基盤整備を実施した地区の数

成果実績
令和元年度：2件

施策

放射線防護対策及び危機管理体制の充実・強化

政策

原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守ること